

第14回人工湿地ワークショップ2019 in オホーツク

令和元年9月7日(土)～8日(日)にかけて、伏流式人工湿地ろ過システムの酪農排水処理への導入拡大に向けた、第14回人工湿地ワークショップ2019 in オホーツク(紋別・滝上・西興部)が開催されました。このワークショップは污水浄化のための人工湿地システムの普及と研究を促進するため、2006年より毎年、北海道や東北で開催されているものです。



現地見学集合写真(滝上町)

初日(9月7日)の事例研究では12件の発表があり、北海道における伏流式人工湿地の取組み、固液分離(堆肥化)と人工湿地を組合せた畜産糞尿処理、植栽水路と鉛直流湿地の性能比較、生活排水・トイレ・下水処理への応用、廃棄物処分場浸出水処理への応用などの発表がありました。

また、2日目(9月8日)の現地見学会では、オホーツク振興局管内の大規模酪農家に導入された次の2か所の伏流式人工湿地システムを見学しました。

- ①滝上町の酪農会社(搾乳牛500頭規模)の搾乳牛舎パーラー排水処理施設、2011年5月処理開始(運用期間約8年)。
- ②西興部村の酪農会社(搾乳牛900頭規模)に酪農メタン発酵消化液処理施設、2018年10月処理開始(運用期間約10ヶ月)。

北海道から九州まで、大学、民間企業、農業者、公共機関などから合計49名の参加者があり、今後の普及拡大につながることを期待されます。



人工湿地全景(西興部村)